



まちづくりのススメ



加藤 美浩

まちづくりのスズメ

-----マチヅクリハ

人ノ上ニ人ヲ造ラズ

人ノ下ニ人ヲ造ラズ-----

加藤 美浩

はじめに

「天ハ人ノ上ニ人ヲ造ラズ人ノ下ニ人ヲ造ラズ・・・」という言葉を聞くと、多くの方が福沢諭吉さんの「学問ノススメ」を思い浮かべるでしょう。なぜ皆さんが知っているのかというと、おそらくは小学校や中学校の国語の教科書に出ていたからなのではないでしょうか。教科書にはほんの一部が載っている程度だったと思いますが、「天ハ人ノ上ニ・・・」と聞いただけでこれを思い浮かべるのですから、それはよっぽどインパクトのあるものだったのか、あるいは先生が「試験に必ず出るぞ」と言っていたかのどちらかだったのだろうと思います。

この知っているようで知らない「学問ノススメ」ですが、全体を要約すると、「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと言われている。人は生まれながらの差別などないはずなのに、広く社会を見てみると、賢い人・愚かな人、裕福な人・貧乏な人、地位の高いと言われる人・低いと言われる人など、いろいろな格差がある。どうしてそのようなことが生じるのかというのははっきりしていて、賢人と愚人との別は、学んだか学んでいないかということであり、学んだ人は賢くなり富や地位を得、学ばない人はそうはなれない。だから学ぶことは大切なのだ。」と、こんな感じだと思います。

これを読んでみなさんはどう思われますか。「そうだ！それとおおり！」と思われる方もいらっしやるでしょうが、勉強ぎらいの私などは、「勉強しないと幸せになれないの？一生勉強し続けなきゃダメなの？」と誤ってしまいます。

でも、本当に大切な部分はもう少し先のほうに出てきます。「ただ学ぶといっても語学や思想ばかりではだめで、実学、すなわち生きていく上で必要な知識や実際に使えることを学んでいくことが必要である」と展開していくのです。このことこそが、この時代から先に大きく日本を動かす力の源となり、ま

た、今でも、学ぶこと、学問に向かう心において日本人の中に深く根付くものとなったのです。

話を本書のことに移します。本書のタイトルを「まちづくりのススメ」としたのは、まちづくりは単なる学問ではなく実学であるということであらためて考えたかったこと、そして、「マチヅクリハ、人ノ上二人ヲ造ラズ、人ノ下二人ヲ造ラズ」をあらためて感じていたできたかったという想いです。

まちづくりの中には差別も格差もあります。そこに暮らす人すべてが幸せである、そのことだけなのです。「幸せになりたい」という願いは誰もが持っているもので、その願いが具現化されたもの、あるいはそのプロセスがまちづくりです。

まちづくりが行われた結果、一部の人は幸せになったけれど、一部の人はそうではなかった、あるいは、理屈は通っているが良い暮らしを実感できないというのでは、そのまちづくりは成功したとは言えないのです。

では、どうすればまちづくりは成功するのか。そのヒントを書いたのが本書です。まちづくりは「幸せ感」を共有することであるのは間違いないところですから、「共有できる幸せは何か?」「どんなまちがいいまちか?」をたくさん挙げればヒントになるのではないかと考えました。そして、まちづくりは「ムズカシクナイ」のがいちばん大切なので、わかりやすいキーワードをつけることとし、それをかるとのように「あいいうえお・・・」と五十音順で並べてみました。たくさんのキーワードの中に、きつと皆さんに共感いただけるものがあるのではないかと思っています。

「まちづくりのススメ」は、「そこに住む人々がそれぞれ価値観の中で幸せを感じる事がまちづくりであり、その幸せは価値観を共有することや相手の幸せを願うことでより大きいものになる」という考えで書いたものです。勉強をして賢者となり富を得るという幸せもあるが、日々の幸せを感じ、また、他人の幸せのために自分ができることをやるということだけで、「まちづくり人」なのであり、「まちづくり人」として地域で暮らすことがいちばんの幸せであると思つて書いています。

この本をお読みいただき、ひとりでも多くの方が、「まちづくり人」を実感しながら幸せに暮らされていくことを願ってやみません。

目次

あ	愛がいつばいのまち	7
い	イベントの質がよいまち	9
う	裏通りが魅力的なまち	11
え	絵になる場所が多いまち	13
お	音楽が生活の一部になっているまち	15
か	顔の見えるつきあいがあるまち	17
き	木がいきいきとしているまち	19
く	車がいちばんじゃないまち	21
け	景観がきちんと語られているまち	23
こ	コミュニティが育っていくまち	25
さ	災害に強いまち	27
し	四季が感じられるまち	29
す	スピード感が尊重されているまち	31
せ	世界に誇るものがあるまち	33
そ	空が共有されているまち	35
た	他を認められるまち	37
ち	地縁が人の縁になっているまち	39
つ	終の棲家にふさわしいまち	41
て	手仕事を活かされるまち	43

り	ら	よ	ゆ	や	も	め	む	み	ま	ほ	へ	ふ	ひ	は	の	ね	ぬ	に	な	と
利益をみんなが実感できるまち	ライフラインが意識されているまち	夜が楽しいまち	豊かになりたい気持ちがあるまち	やめる勇気があるまち	もてなしができているまち	芽を見る目があるまち	無理を力に変えられるまち	水を大切にできるまち	祭りを楽しんでいるまち	方言を誇りに思っているまち	変化し続けるまち	副がしっかりとっているまち	ひとりが暮らしが楽しいまち	ハレとケがあるまち	農業が大切にされるまち	年表のあるまち	ぬくもりが感じられるまち	にぎわいのあるまち	懐かしさのあるまち	通りに名前のあるまち
85	83	81	79	77	73	73	69	67	67	63	61	59	57	55	53	51	49	47	45	

るれろわをん

ルールを納得できているまち
歴史が生きているまち 89
老人が輝いているまち 91
ワークシヨップ上手じゃないまち
をができているまち 95
ん？が、んーん？になるまち

87

96

93



愛がいつぱいのまち

いきなり「愛」なんて・・・と思われるかもしれませんが、あいうえお・・・という順番で始めたら「あ」になっちゃうわけで、特に一番目が特別というわけではありません。

まちづくりは愛だなんて、なんとも艶っぽいですね。ちよつとドキドキするような感じもします。そうなんです。まちづくりってドキドキワクワクなんです。それを言葉にすれば「愛」なんじゃないかと。

愛っているいろいろありますよね。男女の愛、家族愛、兄弟愛、師弟愛、ちよつと変わって自己愛なんていうのも。また、愛は人だけに向けられるものではありません。動物をかわいがる気持ちや植物を愛でる心、物や事柄に対しても愛はあります。そう考えると、私達の暮らしているところはなんと「いつぱいの愛に囲まれていることでしょうか。」

そんな中でまちづくりに大切なのは、人と人との愛はもちろんですが、もうひとつ「郷土愛」ではないでしょうか。自分の生まれ育った、あるいは住んでいる土地を愛する。そしてそこに住む人達を愛する。これはまちづくりそのものです。愛がなければまちづくりなど成立しません。

愛は与えるものであり、また受けるものでもあります。これもまちづくりそのもの。愛の原点は、お互いの存在を認め合うことです。存在を否定されたり、無視されたりすることほどつらいことはありませんし、認め合う気持ちがあれば、その先の人と人とのつながりは生まれません。そのまちに自分が存在している事実を相互に認識する。お互いの求めを知る。それに応えていこうとする。それが「暮らす」ということなのです。

いきなり抽象論っぽくなってしまいましたが、愛には形がありませんし、数字で表わされるものでもありません。ここまでは愛ではなくてここからが愛だという線が引かれているわけでもありません。そ

続きは
完成版で
お楽しみ下さい。